

北海道大学、**BostonGene** の AI 搭載ゲノムプロファイリングプラットフォームを活用し、がん精密医療を推進

個別化がん治療を推進する為の分子および免疫システムのデータ活用に関するパートナーシップ

がん・免疫向けに AI を開発する **BostonGene** は本日、北海道大学との研究提携を発表しました。この複数年の取り組みは、精密治療の発展を支援し、日本の患者の治療成果の改善と、アクションアブルかつ高品質で臨床的に有用なデータを生み出すことを目的としています。

BostonGene は、次世代シーケンシングを活用し、独自の AI 搭載プラットフォームを用いて DNA、RNA、免疫システムプロファイリングの統合解析を行います。北海道大学から提供される 20 以上のがん種の腫瘍サンプルのゲノムおよび免疫プロファイルを解析します。これらの解析は、患者固有の疾患ドライバーの特定、そして治療方針の決定の参考情報となり得ます。

「**BostonGene** の AI 搭載プラットフォームは、臨床データを実用的な知見へ導くのに必要な高度な分析情報を提供してくれます」と、北海道大学の研究責任者であり、がん遺伝子診断部教授・腫瘍内科科長の木下一郎医師、および、北海道大学病院 医療・ヘルスサイエンス研究開発機構 先端診断技術開発センター 特任准教授 畑中豊氏は述べています。「私たちの科学的な専門知見と患者検体を提供することにより、日本のがん患者へのより個別化された効果的な取り組みを推進していきます。」

「本提携は、患者から得られる複合的なデータを、**BostonGene** の AI を活用した解析により、臨床治療の進歩に繋がられるかを示す良い例となり得ます」と、**BostonGene Japan** 代表取締役社長の塩津行正は述べています。「本提携は、臨床ニーズの高いトランスレーショナル・オンコロジーを推進する当社のコミットメントを強化するものです。」

BostonGene について：

BostonGene は、腫瘍および免疫生物学の AI 基盤モデルを用い、疾患レベルの知見を提供し、創薬から臨床に至るまで、腫瘍学および免疫が関わる疾患に対する精密な意思決定を可能にします。**BostonGene** は、ゲノム、トランスクリプトーム、免疫、臨床シグナルを含

むマルチモーダルデータを統合することで、生物学的に根拠のあるインテリジェンスを生成し、患者選択、治験設計、治療戦略を最適化します。これにより、開発成果と臨床管理を改善する拡張性の高い AI による意思決定が提供されます。BostonGene は、主要なバイオ医薬品企業や学術機関と提携し、精密治療の提供を加速させるとともに、新たな疾患や複雑な生物学的システムへの対応能力を継続的に拡大しています。詳細については、こちらをご覧ください。 www.BostonGene.com

BostonGene Japan について :

BostonGene Japan 株式会社は、BostonGene、NEC、日本産業パートナーズが東京に設立した合弁会社で、個別化医療の推進と患者アウトカムの飛躍的な向上を目指しています。同社は、BostonGene の AI を活用したプラットフォームを活用し、医薬品開発を加速し、患者に合わせたがん治療の個別化を目指しています。

Media Contact:

BostonGene

Erin Keleher

+1-617-283-2285

Erin.Keleher@BostonGene.com